



全 崎 私 幼

第 122 号

令和 2 年 1 月 10 日

From

2020 年頭にあたって



(公社)全埼玉私立幼稚園連合会
会長 四ツ釜 雅彦

明けましておめでとございます。会員園の皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと拝察いたします。

さて、昨年の九月から十一月にかけて台風十五号、十九号と続けざまに関東地方を直撃しました。その強烈な風雨によって送電網が寸断され、大規模な停電が発生したり家屋が倒壊したり、さらには大雨により堤防の決壊や河川の氾濫が相次ぎ、多くの尊い命を奪うなど甚大な被害をもたらしました。埼玉においても災害に見舞われた地域もあり、一日も早い復旧と生活の再建を願うとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げる次第です。

この数年、このような自然災害が各地で頻繁に発生し、しかも大規模化する傾向も見受けられ、短期的な異常気象というよりも温暖化など地球環境全体の気候変動が起きているのではと思われまます。

九月にニューヨークで開催された地球温暖化対策サミットにおいて、その会議に招かれたスウェーデンの女子高校生であり環境活動家のグレタさんは、演説の中で「子どもたちの未来に関わる地球の温暖化に大人

たちが何もしないから、私たちが行動している」と述べ、大きな反響を呼ぶところとなり、環境問題は若者を中心に世界的な活動へと広がりを見せています。

私たちは産業革命以降わずか二、三百年で便利さや暮らしやすさ、快適さを追求するあまり、環境問題をなおざりにしてきました。そしてその結果として、地球の温暖化が進み、大きな災害が発生していると考えられています。そのことから地球環境の保全のために何らかの行動を起こすよう、次の時代を生きる若者世代から大人への強いメッセージであると思えます。

平成三十年四月に改定施行された幼稚園教育要領(含む認定こども園教育・保育要領等)では「幼児期の終わりまでに育って欲しい十の姿」が示され、その一つとして「自然との関わり・生命尊重」が取り上げられています。幼児教育に携わる私たちは、これまで日々の教育・保育の中で子どもたちに身近な事象を通して自然の大切さや生命の尊さを教えてきました。しかし、地球環境の変化、大規模な災害や気候変動が認めら

CONTENTS

- P 1 年頭にあたって
- P 2 全埼玉私立幼稚園 P T A 振興大会
- P 3 子育てフォーラム 親学推進大会
- P 4 特別支援委員会 人権教育研究協議会
- P 5 新採研 9 日目感想
- P 6 園長主任研修会
- P 7 ティータイム
- P 8 彩の国 幼稚園めぐり

れ、グローバル化する社会など今日の実情を考えると、幼児教育にあっても、これまで以上にエコや環境問題を踏まえて生活を見直し、身近なところから環境の保全のための行動を身につけるようにしていくことが必要かと思えます。

さて、昨年十月から幼児教育・保育の無償化がスタートしました。この無償化により保護者の経済的負担が軽減され、公立私立の幼稚園・保育園・認定こども園の保育料負担の違いはなくなり、幼稚園並びに幼稚園由来の認定こども園が重視する教育が、園選びの一層重要なポイントになるものと考えます。その点からも教育・保育の質の向上に努めることが一層大切となつてきます。

少子化傾向とともに、園の経営環境は厳しい時代が続くようですが、「子どもたちの幸せ」のために、会員各園におかれましては、幼児教育の一層の充実を目指して邁進されますことを祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。